



西京極

平成31年2月19日  
京都市立西京極小学校  
校長 今村 ひろみ

## 平成30年度後期学校評価アンケート結果のお知らせ

### 学校教育目標 心やさしく 心身ともに たくましい子の育成

思いやりのある心やさしい子ども  
自分で考え、判断し、行動できる子ども

仲間と力を合わせてがんばる子ども  
目標をもって粘り強く取り組む子ども

学校の梅の花も咲き始め、春の訪れが感じられることとなりました。保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。いつも本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

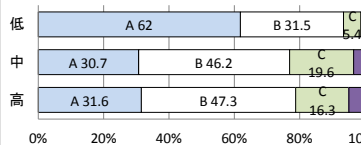
さて、今年度12月に実施しました後期学校評価アンケートの集計結果について、お知らせいたします。

【実現度】A…よくできている B…大体できている C…あまりできてない D…できていない  
◇ 低…低学年（1・2年生） 中…中学年（3・4年生） 高…高学年（5・6年生）

#### 1 確かな学力

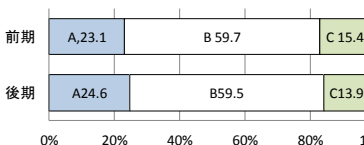
##### 【家庭での自主学習】〈児童〉

1家で進んで宿題や自主学習(予習・復習)をしている



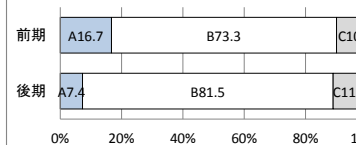
##### 〈保護者〉

1家庭では、宿題や自主学習など、家庭で学習する習慣づけを行っている



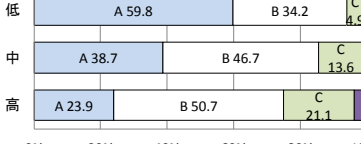
##### 〈教職員〉

1子どもたちに、家庭で主体的に学習する習慣がつくように働きかけている



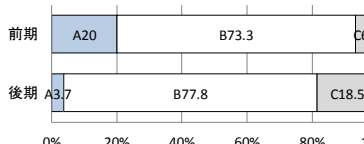
##### 【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】〈児童〉

3学校でめあてをもってわかる(できる)まで粘り強く学習に取り組んでいる



##### 〈教職員〉

3子どもにわかりやすい授業を進めることができている

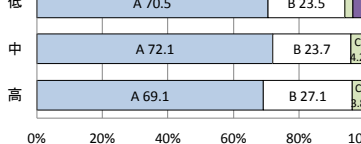


##### 〈結果の考察及び改善策〉

家庭での自主学習については、前期に比べて中・高学年ともに「できていない」「あまりできていない」と回答する児童が20%強と前期より約5%増えています。再度、「何のために家庭学習をするのか」「どのように進めるとよいのか」など、発達段階に応じて児童が納得できるように指導する必要があると考えます。また、家庭学習や学校で行った指導なども学年通信等で具体的に家庭へ発信していきます。教職員の「分かりやすい授業を進めることができている」については、A・B回答が前期と比べかなり減少しています。これは、前期に比べ各学年の学習内容が難しくなっていることもあり、児童の実態を見てみると、十分に学習内容を定着させることができていないと感じている結果ではないかと考えられます。さらに、わかりやすい授業をめざし、教員同士が板書を見合ってお互いに授業をふり返るなどすることで今後も授業改善を進めます。

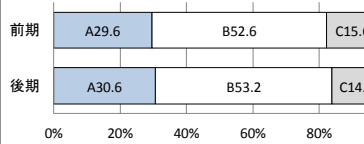
##### 【学習の準備】〈児童〉

4学校に必要なものを自分で準備している



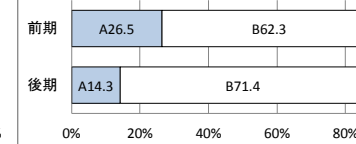
##### 〈保護者〉

3子どもが、学習に必要なものを自分で準備する習慣がつくように働きかけている



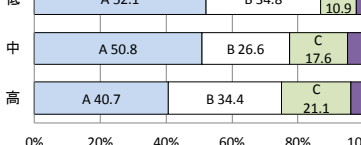
##### 〈教職員〉

4子どもたちに学習に必要なものを自分で準備する習慣がつくように働きかけている



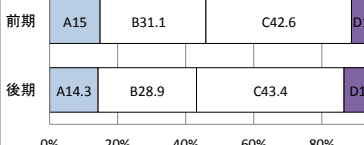
##### 【読書の習慣】〈児童〉

2本をよく読んでいる



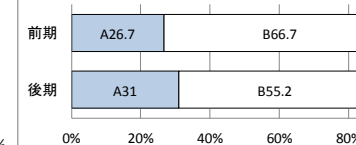
##### 〈保護者〉

2子どもが、家庭でも本を読むように働きかけている



##### 〈教職員〉

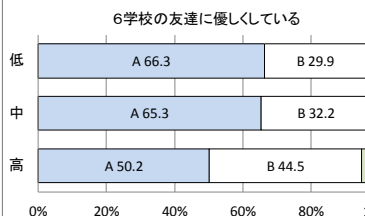
2子どもたちに、読書の習慣が定着するように働きかけている



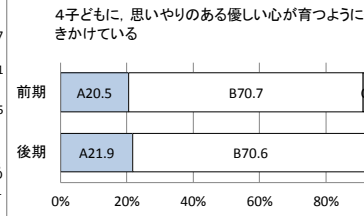
「本をよく読んでいる」については、「よくできている」「できている」と回答した児童が、前期に比べて低学年で5.5ポイント、中学年で3.4ポイント、高学年では0.4ポイント減っています。また、保護者、教職員の「よくできている」「できている」の回答も前期と比べ減っています。このことから、児童・保護者・教職員とも「読書が十分でない」と感じていることが伺えます。今年度は、見やすく本を配列したり、本棚を増設して蔵書の幅を広げたりと、学校図書館を改造したので、今後さらに様々な学習で意識的に図書館を利用していきたいと思います。また、現在行っております毎日の朝読書を充実させるとともに、「多読につながる授業」「読書ノートの活用」「読書意欲を高める図書紹介」「読書週間の取組の工夫」など、図書館利用を促すための取組を、学校司書と連携しながら今後も継続して進めていきます。また、家庭での読書習慣の定着については、今後、図書ボランティアの方々と協力しながら、家庭での読書にオススメの本の紹介等をしていきたいと思います。

#### 2 豊かな心

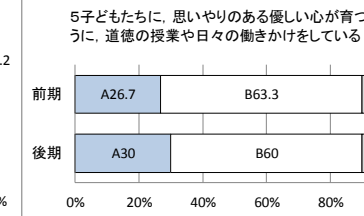
##### 【思いやりのあるやさしい心】〈児童〉



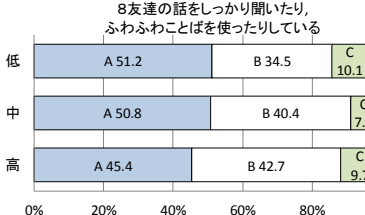
##### 〈保護者〉



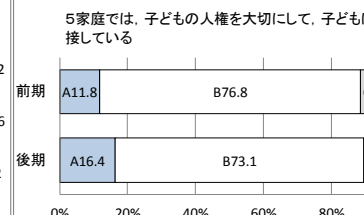
##### 〈教職員〉



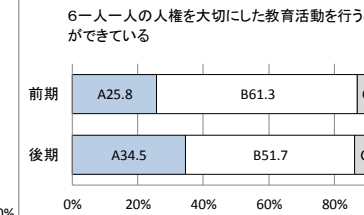
##### 【人権を大切にした教育】〈児童〉



##### 〈保護者〉

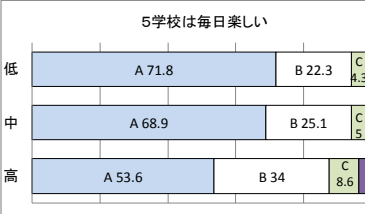


##### 〈教職員〉

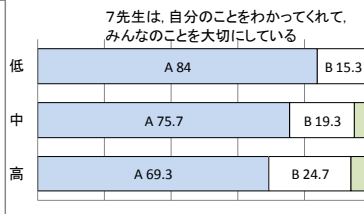


保護者・教職員の「思いやりのある優しい心が育つような働きかけ」「子どもの人権を大切に接する」については共に「よくできている」の割合が増えています。「友だちにやさしくしている」「友だちの話をしっかり聞いたり、ふわふわ言葉を使ったりしている」では、前期と比べ「あまりできていない」「できていない」の割合が増えています。2学期になり学級にも慣れて、友だちとの関わりが増え、様々な友だちと関わり合うようになったことで、頭ではふわふわ言葉が大事だと分かっているにもかかわらず、ついついきつい言葉が出てしまったり、優しくできなかったりするのはないかと考えられます。今年度から道徳が特別の教科になったことや、学校便り、学年便り等で日々の取組を発信していることで、保護者・教職員共に人権を大切にする意識が高まったのではないかと考えられます。今後も、自己実現の場を増やし、自己肯定感をさらに高めていくことができるよう、全ての子どもが分かたず・できたと考える授業づくりに努めていきたいと思います。更に、互いの違いを認め合う指導の継続、児童理解を深めることで、どんな友だちとも仲良く生活していくことができるようにしていきたいと思います。保護者・教職員においては、自らの言動が周囲に及ぼす影響を想像する力を養い、自らの人権意識を高めていくことが大切であると考えます。

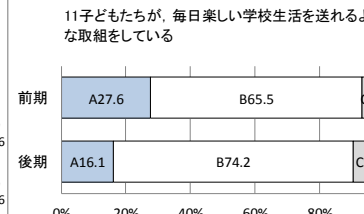
##### 【楽しい学校生活】〈児童〉



##### 〈児童〉

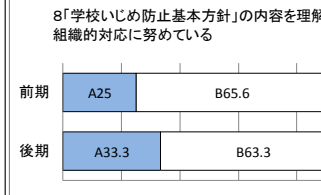


##### 〈教職員〉

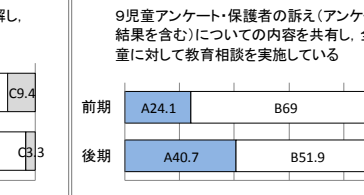


教職員の「児童に対する教育相談の実施」については、大幅なポイント増加が見られました。これは、校内研修を行ったリ、生徒指導部会で情報を交流したりすることで、教職員の意識改革ができた結果とらえています。しかし、『いじめ防止等基本方針』にも「全児童に対する教育相談」が明記されていますので、C回答も0ポイントになるよう、今後も努力していきたいと思います。そのような教職員の働きかけが、児童の「先生は自分のことをわかってくれて、みんなのことを大切にしている」の結果にもつながってくるのではないかと考えています。

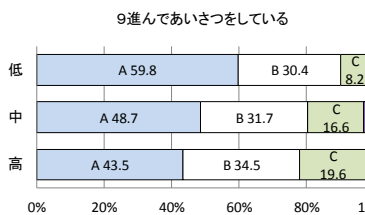
##### 【いじめ防止のための取組】〈教職員〉



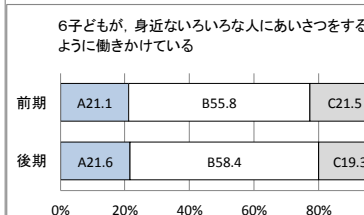
##### 〈教職員〉



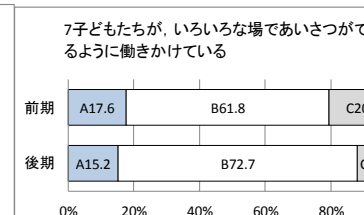
##### 【あいさつをする】〈児童〉



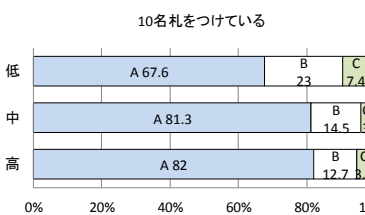
##### 〈保護者〉



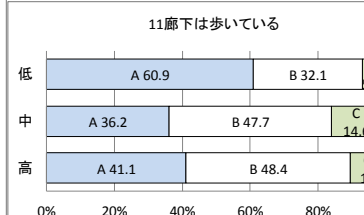
##### 〈教職員〉



##### 【規則を守る】〈児童〉



##### 〈児童〉



「あいさつをする」については、児童会を中心に「あいさつ運動」に取り組み、教職員の挨拶への働きかけのA・B回答も前期より増加傾向にあるものの、児童のA・B回答の割合が前期に比べて低学年で2.2ポイント、中学年で4.4ポイント、高学年では5.9ポイント減っています。今後も「あいさつ運動」に全校児童が参加できるように取組を広げるとともに、教職員の働きかけも継続していくことが必要であると考えます。相手意識をもって、進んであいさつができるように引き続き取り組んでいきたいと思います。